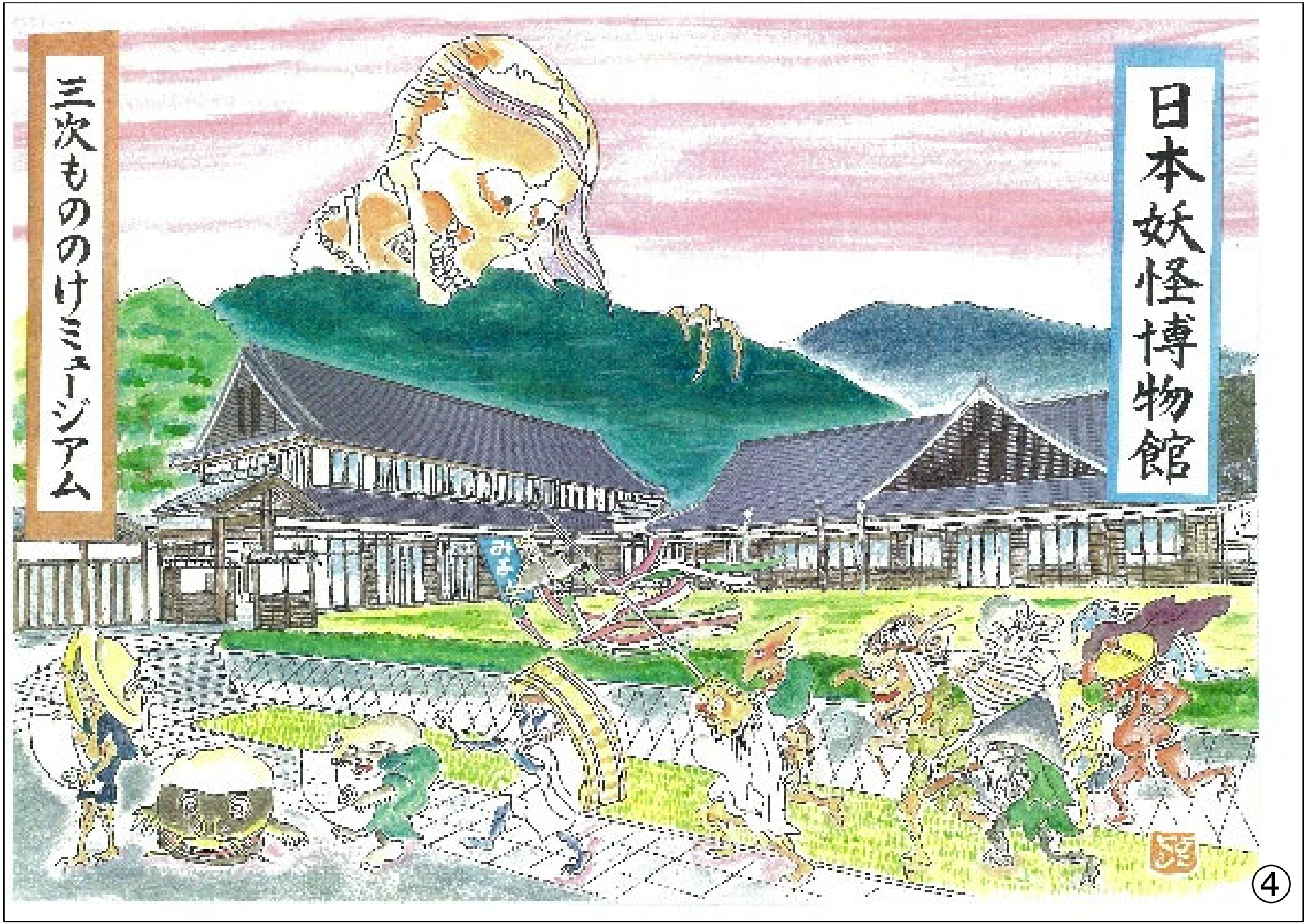

三次ものの
租税教室
～平太郎参上～
●月●日
企画・制作：三次法人会女性部会
さく・え：行　政　豊　彦


三次の
もののけ
物語
①


稻生祖太夫神


③


三次もののけミュージアム
日本妖怪博物館
④


⑤

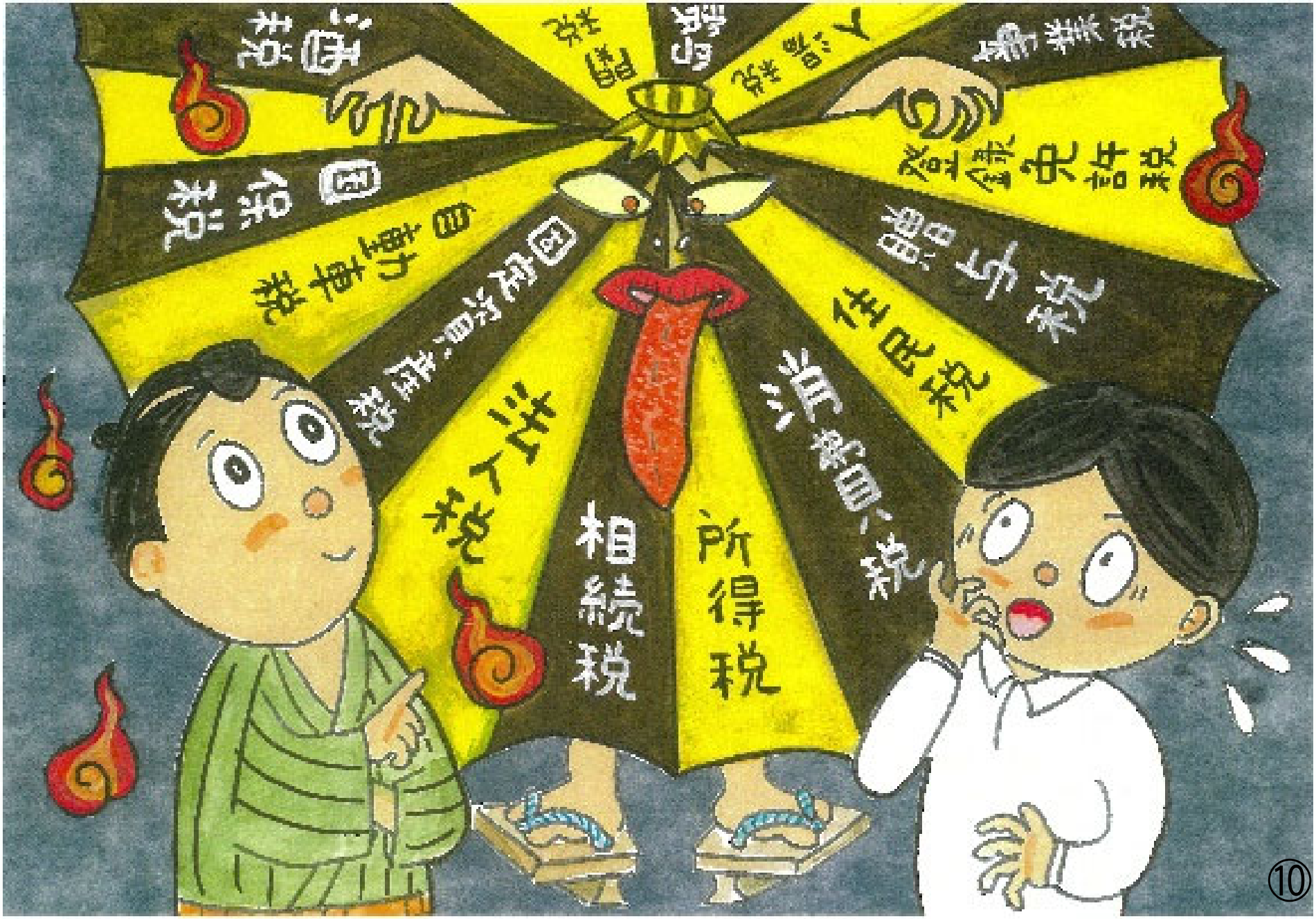

算数
国語
⑥


平太郎


国語
平太郎
⑧

税金

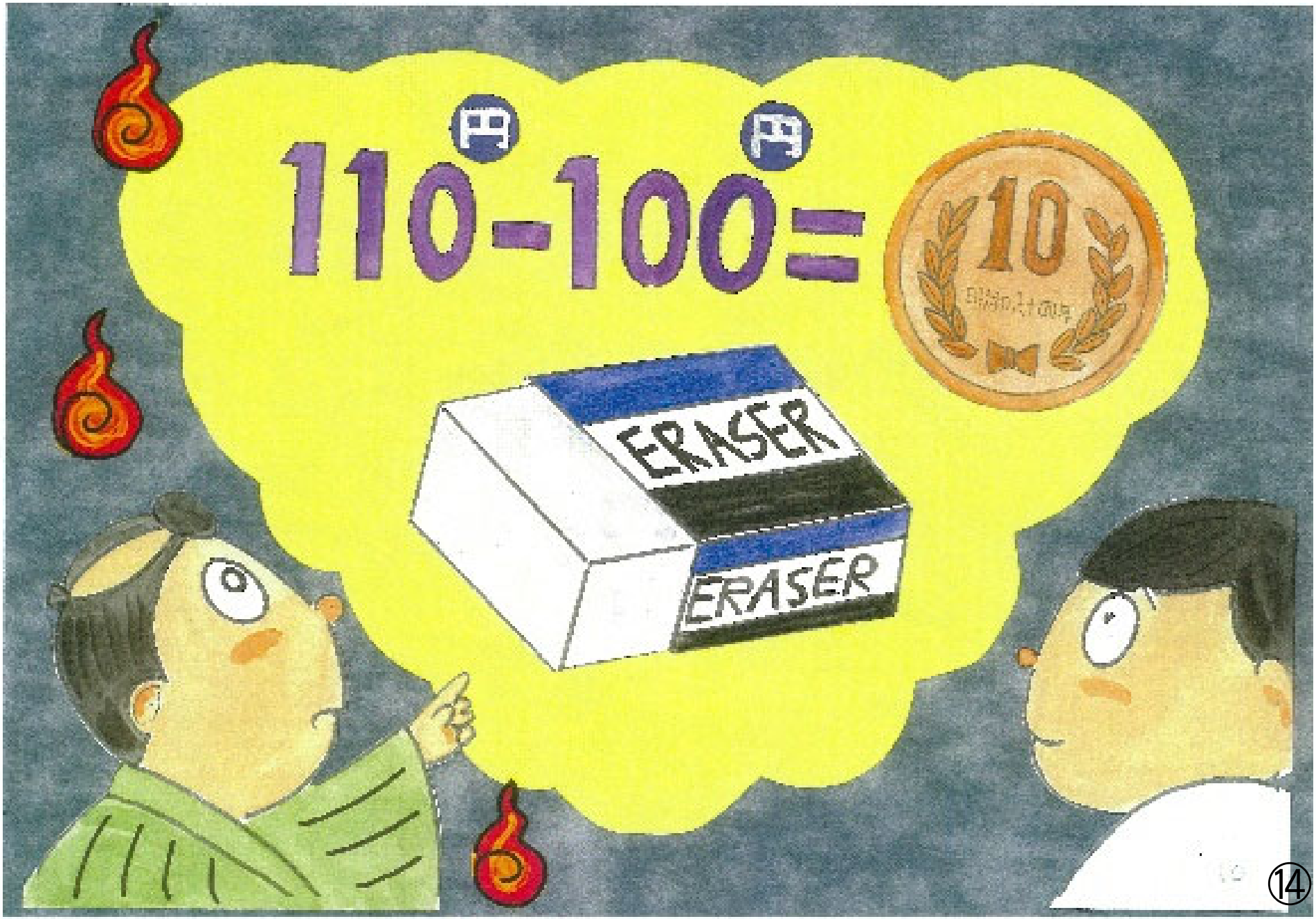



相続税
所得税
消費税
贈与税
法人税
酒税
たばこ税
揮発油税
地方道路税
石油ガス税
航空機燃料税
石油石炭税
電源開発促進税
自動車重量税
登録免許税
印紙税
関税
とん税
特別とん税
⑩


祝
百周年


⑫


備北消防
備北消防
広島県 警察
POLICE
街をきれいに
パッカー車


110円-100円=
10
ERASER
ERASER


10


役所
税金
住民サービス等




ぜいきん
がみしばい
社会


天太郎
太郎

〔表紙〕

三次もののけ　租税教室　～平太郎　参上！～

〔１〕

【ナレーション】

ここは〇〇小学校の６年生の教室です。

ホームルームの時間にあかね先生が三次の歴史について話し始めました。

【あかね先生】

「ところで、みんな、三次に“もののけ”のお話があるのをしっていますか？」

【児童（全員）】

「私、知ってるよ！」

「僕も知っとるよ！」

〔２〕

【あかね先生】

「稲生物怪録（いのうもののけろく）といってね、江戸時代に、三次に実在した稲生平太郎（いのうへいたろう）という 16 歳の少年が体験したという、“もののけ”にまつわる事をとりまとめた物語があるんですよ～。」

【みーくん】

「えーーー！先生！！どんなことがあったの～？？」

【あかね先生】

「そうですね～物語の中から少しだけお話しすると～

天井から生首女が落ちてきても平気！巨大老婆の大きな首が出てきても刀で退治！

平太郎は、毎日毎日怯えることなく、戦い抜いたんですよ～！」

〔3〕

【ナレーション】

あかね先生は、“もののけ”について話しを続けました。

【あかね先生】

「せっかくなので、平太郎についてもう少し詳しく説明すると、

最初のうちは、好奇心から戦っていたんだけど・・毎日違った“もののけ”が現れて、

最後の 30 日目に“もののけ”の頭領である山本五郎佐衛門（さんもとごろうさえもん）が

『ここまで度胸のある少年は初めてだ！！』と平太郎に小槌をプレゼントし、

“もののけ”を引き連れて、三次から退散していったとのこと・・・」

「この場面は、一つ目の“もののけ”（大入道　だいにゅうどう）が平太郎に襲いかかったところです。」

〔４〕

【ナレーション】

三次市ではこの物語をもとに、町を元気にしようと『日本妖怪博物館　みよしもののけミュージアム』を作りました。

興味がある人は、行ってみてくださいね～。

３秒くらい間を置く・・・

〔５〕

【ナレーション】

さて・・・ホームルームの後の事です。バタン！バタン！

【みーくん】

「次は算数、その次は国語か～！“もののけ”の話は面白いけど、算数や国語は、おもしろくないなあー！！」

【ナレーション】

そう言ってクラスメイトのみーくんが、ランドセルから机の上に教科書を投げ出しました。

〔６〕

【よっちゃん】

「だめよ、みーくん！教科書を投げたりしたら・・教科書がかわいそう・・・」

【ナレーション】

よっちゃんが言いました。

【みーくん】

「どうせ教科書は“ただ”だし、次の学年でまた新しいものをもらえるんだからいいよ！」

【ナレーション】

みーくんが言いました。

【よっちゃん】

「でも・・でも・・・そんな事しちゃダメだよ」

【ナレーション】

その時です。

教室の明かりが、「ふーっ」と消えて、生暖かい風が「ふわー」と吹いてきました。

【平太郎】

「教科書を粗末にしているのは誰かいのう？？」

【ナレーション】

教室の後ろから声がしてきました。みんながビックリして振り返ると…

〔7〕

【ナレーション】

そこに立っているのは江戸時代の格好をした少年でした。胸には、「平太郎」と書いてあります・・・。

そうです！さっき先生が話していた平太郎です。

【平太郎】

「みーくん！教科書はただじゃないんじゃけーのおー！」

【ナレーション】

平太郎が言いました。

〔８〕

【みーくん】

「びっくりしたー！！もう！！驚かせないでよ！！

でもね、教科書をもらう時におうちの人もお金払ってないよ！だから、誰がどう言っても“ただ”なんだよ！！」

【ナレーション】

みーくんがぶっきらぼうに言いました。

【平太郎】

「確かに教科書をもらう時にはお金は払わんけど・・・

みんな立派になって欲しいとたくさんの人が集まって、原稿をつくって、印刷にもたくさんのお金をかけて作られているんじゃ。」

【ナレーション】

と平太郎が言いました。

〔９〕

【よっちゃん】

「じゃあ、そのお金はどこからでているの？？」

【平太郎】

「この教科書は・・「税金」というお金を使ってみんなに配られておるんじゃ。
だから、教科書は決してただじゃないんで。」

【よっちゃん】

「何かよくわからないけど・・その『税金』ってなーに？？」

〔１０〕

【平太郎】

「ええ質問じゃ！！『税金』は日本中の人から集めたお金の事で、なんと５０種類もあるんじゃ。例えば会社で働いた人がお給料をもらう時に払う所得税、家や土地を持っている人が払うのが固定資産税、他にも会社の利益にかかる法人税、車にガソリンを注ぐ時のガソリン税などなど・・・たくさんあるんじゃ。」

【よっちゃん】

「えーっ！そ～んなにたくさんの税金があるんだ～！」

【平太郎】

「みんなから集めたこの『税金』で、みんなが使っている教室の机、イス、教科書はもちろん、この学校の校舎や図書室の本、それから、毎日みんなが通学している道路や信号もそうなんじゃ。」

〔１１〕

【平太郎】

「そうそう、さっきあかね先生が話していた町おこしのための、もののけミュージアムは『三次市の税金』で作られているんじゃ。」

【ナレーション】

「もののけミュージアムは 2015 年～2017 年に約 12 億 6500 万の費用で建てられました。」

これからも、多くの人が三次の町に来て楽しんでもらいたいですね。

〔１２〕

【平太郎】

「それから・・・みんなが見学に行ったクリーンセンターやゴミ収集車を知っておるか？
もし、おうちや、街じゅうから出るゴミを誰も集めてくれんかったらどうなるじゃろうか？？」

【ナレーション】

平太郎は続けました。

【平太郎】

「みんなが清潔な暮らしができるのも、街じゅうのゴミを安全な形で処分できるのも、
『税金』のおかげ・・・ということなんじゃ。」

〔１３〕

【平太郎】

「他にも、救急車やパトカー、消防車を買うためにも『税金』が使われているんじゃ。

もし、消防車が無かったらどうなると思う？？・・・火事になっても誰も火を消しに来てくれんし、急に病気やケガをしても、救急車が来んかったら困るじゃろう。こんな風に、みんなが便利で安心して生活ができるように『税金』が使われておるんじゃ。」

【みーくん】

「へーそうなんだ！！」

【平太郎】

「実は、みーくんも『税金』を払っとるんで！！」

【みーくん】

「えーー僕がーー？？僕は払ってないよ！」

【平太郎】

「みーくん確か・・・」

〔１４〕

【平太郎】

「昨日、１００円の消しゴムを買うたじゃろう。その時に店のおばちゃんに１１０円払ったじゃろ。１１０円と１００円の差、この１０円が消費税という『税金』なんじゃ。みーくんも立派に『税金』を払っとるんで。」

【みーくん】

「えーーー僕も『税金』払ってたんだ！！ビックリ！！」

〔１５〕

【みーくん】

「・・・でもさ、１０円じゃ消防車は買えないよなー？？」

【平太郎】

「そう！１０円じゃ買えんよのう。はしごのある消防車は１台２億円くらいするからのう。じゃが、みんなで少しづつ出し合えばすごく大きなお金になって、消防車も買えるようになるんじゃ。」

〔１６〕

【平太郎】

「みんなから集めて、みんなの為に使う・・・この『税金』の仕組みを使って、街じゅうキレイに整備もできるし、立派な橋も架けることができておるんじゃ！その教科書だって、み～んなに配ることができるんじゃ。だから、もし誰かが、『私は払いたくない！』と言ったらどうなると思う？？」

【みーくん】

「この社会を支える仕組みが成り立たなくなるんじゃないかなあー？」

【平太郎】

「そうじゃな！！税金とは、大人から子ども、みーんなが安心して、暮らしていく為に大切で、絶対に必要なものなんじゃ。」

【ナレーション】

と平太郎がみんなに、たくさんの税金の仕組みについて話し終えると・・・

〔１７〕

【みーくん】

「うーーーん・・・「税金の仕組み」のおかげで、高い消防車も買えるし、
この教科書も税金が使われて僕らに配られているんだね。ただじゃないんだね。」

【ナレーション】

みーくんが腕組みをして考え始めました・・・

【みーくん】

「そうか！！！僕が支払った１０円も税金として役立っているのか！！」

〔１８〕

【ナレーション】

その時です。ガラガラガラ・・・・教室の前の扉が開いてあかね先生が入ってきました。教室はいつの間にか元のように明るくなりました。

【あかね先生】

「今日の２時間目は租税教室で、三次法人会女性部会の皆さんから『税金』のお話をしてもらいます。」

【ナレーション】

「皆さんこんにちは！三次法人会女性部会の●●です。●●です。●●です。これから『税金』について一緒に勉強していきま

しょう！！」

【児童（全員)】

「ええー！先生！税金の大切さなら、たった今、平太郎さんに教えてもらったよ！」

【あかね先生】

「何を言ってるの？平太郎さんは、江戸時代の人ですよ。ここにいるわけないじゃないですか～。」

【児童（全員)】

「だってそこに・・・・・」

〔１９〕

【ナレーション】

あかね先生が振り返ると・・・«平太郎参上！»という古いおふだが一枚揺れているだけでした。

おしまい